

■公開質問状「協議会 3.11.メッセージ」と貴党の文化政策について

公明党（回答日：2013年7月1日）

1. 文化政策の基本的な考え方について

文化芸術は、国民全体の社会的財産であるとともに、持続的な経済発展や国際協力を円滑にする基盤ともなり、国力を高めるものです。

心豊かな国民生活を実現するとともに、活力ある社会を構築していくため、公明党は、文化芸術振興を国の政策の根幹に据え、21世紀の日本を世界に誇る「文化芸術立国」としていきます。

2. 「文化芸術立国を目指すうえで、今後数年のうちに文化予算を2倍にしたい」との下村文部科学大臣の発言について

「文化芸術立国」の実現へ、公明党は文化芸術予算の拡充を一貫して主張してきました。また、文化芸術を新たな成長分野と捉え、予算を拡充し、戦略的に施策を実施していくことが、日本経済再生のためには不可欠です。

与党の一翼を担う立場から、実現に向けて力を尽くしていきたいと考えます。

4. 地域文化振興についての考え

貴会が提言される「文化の多様性を通じた地域社会の再生と創造」は重要な視点であると考えます。公明党も地域や地域の多様な人材に着目した地域文化活動支援に取り組んできました。

5. 国際交流における日本文化の重要性について、特に東アジアにおける文化交流についての考え

有形・無形の文化財や文化芸術など日本文化は世界に誇るべき財産であり国力です。グローバル化の進展に伴い、相互交流が一層進む今日において、相互の理解を深めるには、文化を通じた交流が重要だと考えます。

また、文化芸術を新たな成長分野として振興し、世界に発信していく文化交流は、日本経済再生にもつながると考えます。

※以下の質問に対する回答は特になし。

3. 文化政策と経済政策のかかわりについての意見

6. 「協議会.3.11.メッセージ」について気づいた点

以上